

第65回 宮城県中学総合体育大会 優勝・準優勝チーム紹介

優勝

TOHOKU GAKUIN

東北学院

【監督】八木博紀 【System】4-4-2



【県大会登録メンバー】

Pos.	No	Name	Grade
GK	1	菅野輝人	2
	12	田中平年	3
DF	2	丸山千陽	3
	3	工藤颯大	3
	4	高橋和希	3
	6	鈴木泰智(C)	3
	15	川崎悠澪	2
	17	小塚大輝	3
MF	5	奥山湧太	3
	7	阿部優也	3
	8	大内渉希	2
	10	松本大輝	3
	11	村上大空	3
	14	高橋尚也	3
FW	9	高橋壮明	3
	13	阿部夢吉	3
	16	佐藤駿介	3
	(16)	李裁好	3
	18	磯目伊吹	3
	(18)	柴田楓悟	2



第65回 宮城県中学総合体育大会サッカー競技

準優勝

OGAWARA

大河原

【監督】小室昌弘 【System】4-4-2



【県大会登録メンバー】

Pos.	No	Name	Grade
GK	1	佐々木愛斗	3
	16	江見隆吾	2
DF	3	村上賢太郎	3
	5	門馬裕人	3
	9	佐々木琢真	3
	12	松信嵩斗	2
	13	橋高響	2
	17	吉田宗真	3
MF	30	笛木佑人	3
	7	飯淵遼平	2
	11	武山琳太	2
	21	高橋翔	3
	22	高野怜也	3
	24	中村友翼	3
FW	37	高橋龍馬	3
	88	鈴木颯人(C)	3
	10	一丸航洋	3
	45	加野颯大	3

実力伯仲の熾烈な激戦！

多くのチームに県王座のチャンスがあった近年稀に見る大接戦が初日から展開された2016中総体の宮城県大会。自分達のスタイルを磨き、重ねてきた努力が火花を散らした中学生達によるプライドを賭けた激闘の模様を振り返る。

**2016 SUMMER
全力蹴球**

BEST ELEVEN
本誌選定

多くの原石が輝きを見せた2016中総体！
眩い輝きを見せた選手達たちを紹介！

中総体県大会ベスト11

将来性の豊かな攻勢的な選手が揃った
2016宮城県中総体で輝いたタレント。

個々の選手のポテンシャルの高さでは他を圧倒する選手を揃えた名取第一を軸に、東北学院、大河原、八木山、など上位に進出したチームの中心選手ほか、トーナメント序盤で敗退したチームの中にも局面のプレーで圧倒的なプレーを見せた選手も多く、高校サッカーでの活躍が期待される将来性豊かな選手が多く揃った2016年の総体となった。今回はここで本誌が厳選した22選手を紹介する。

NEXT TEAM



FW 高橋響生
(名取第一/3年)

貪欲な得点への姿勢は県トップレベル。圧倒的な決定力で得点を狙うストライカー。



MF 菊地悠斗
(八乙女/3年)

スピードを活かした本能的なスペースへの侵入から、何度も効果的なチャンスをこじ開けたドリブラー。



MF 遠藤広貴
(矢本第一/3年)

身体の強さを活かした中盤でのボール奪取から、視野の広い攻撃展開で攻守の軸となった大黒柱。



MF 阿部優也
(東北学院/3年)

試合の流れを読んだパス展開、精度の高いミドルシュートで得点を狙い存在感を發揮したボランチ。



FW 一丸航洋
(大河原/3年)

多彩な得点パターンとタフな前線での動きでチームを高めへ押し上げた大河原のエース。



MF 松本大輝
(東北学院/3年)

抜群の攻撃センスを活かした一点突破のドリブルや、決定的なパス、シュートで攻撃を司った攻撃的MF。



DF 鈴木泰智
(東北学院/3年)

機を見た攻撃参加でリズムを生み出し、キャプテンとして全国ベスト8の原動力となった左SB。



DF 菅野達也
(八木山/3年)

身体能力の高さと冷静なライン統率でハイレベルなディフェンスで牽引した八木山の守備の要。



DF 小野優斗
(増田/3年)

自陣での信頼感のあるビルドアップで攻撃の切り替えを担った視野の広さと戦術眼が光ったCB。



DF 鈴木颯人
(大河原/3年)

献身的なタッチライン際での上下動を繰り返し、切れ味鋭い攻撃参加と出足の速い守備で貢献した右SB。



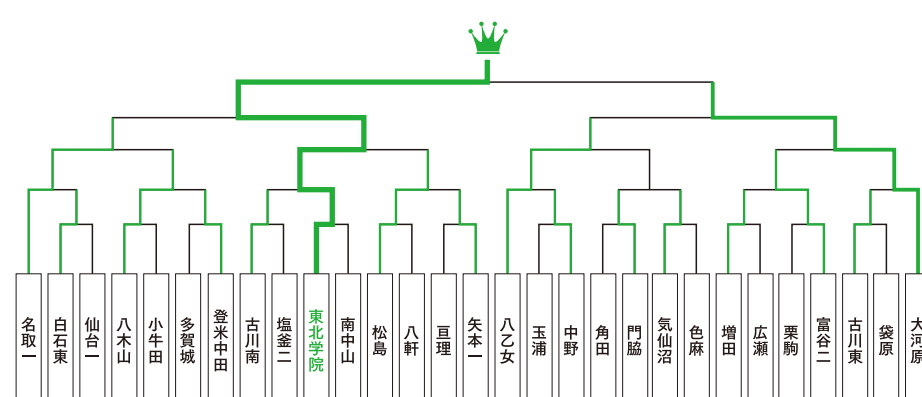
GK 大友望(名取第一/3年)

広い守備範囲でボールを捕捉すると、精度とスピードを兼ね備えた左足のフィードで存在感を見せたレフティーGK。

結果的には名門の東北学院がチームとしての総合力の高さを見せて6連覇を果たし幕を閉じた今大会だったが、東北学院も決して絶対王者としての圧倒的な力で大会を制したわけではなく、全体として見れば非常に多くのチームに優勝のチャンスがあり、実力が拮抗した例年でもまれに見る大接戦となった。

新人戦王者として県内でもトップレベルの個々の能力の高さを發揮した名取第一を軸に、MJ1部リーグで奮闘する八木山中らがポテンシャルの高さを見せつける中、新人戦では地区予選敗退となった大河原は怒涛の快進撃で準優勝を果たし、八乙女が4強入り、増田、松島が8強入りを成し遂げるなど、昨年冬から8か月の間で飛躍的な進歩を遂げたチームの努力の成果が見える戦いぶりも見られた。

多くのチームが「打倒学院」を狙う形で5連覇中の王者にプレッシャーを掛け、そのライバルの奮闘を退けた形で東北学院は後に出場した全国大会でベスト8入りを果たした戦績を見ると、宮城の代表として全国を相手に結果を残した東北学院が、予選で対戦したライ



バルも含め県全体の底力を全国に示す形となった。

トーナメント序盤で敗れたチームにも、将来性豊かな逸材候補が多く活躍し、高校サッカーなど次のステージでさらに花開く選手が続出する近い将来に大きく期待したい。